

(別記)

## 豊根村地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

### 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

豊根村は愛知県の東北部に位置し、人口1,172人が暮らしている。総面積は15,588haあり、そのうち93%を森林が占め、耕作面積は僅か1%と極めて少なく、標高200mから1,000mに散在している。耕作地の多くは山間地域特有の急傾斜地に立地している。

農業者は、農業経営基盤が零細であるため第二種兼業農家がほとんどである。また、高齢化、過疎化等担い手不足の影響により、耕地の遊休化、荒廃化、引いては集落としての存続も危ぶまれている地域も存在している。

水田面積は40haあるものの、過疎化、高齢化に伴い、近年の作付面積は25ha前後である。水田の多くは山付きの日当たりの劣悪な湿田や作業効率の悪い10a未満の狭小水田、変形水田であり、ほとんどが自家消費用の飯米である。

転作の開始以来、気候条件に適した作物の栽培を模索、推進してきた。

現在は、パイプハウスを利用した夏秋トマトやミニトマト、遊休耕地を活かしたブルーベリーの集団転作、道の駅や温泉施設などで販売するための野菜等が取り組まれている。

近年は、各集落において鳥獣害の被害が多くなってきており、農業者の営農意欲を減退させている。

### 2 作物ごとの取組方針

#### (1) 主食用米

県内の消費需要は相当量ありながらも、本村の実情は主として自家消費のための作付が大半である。一部、販売流通の米は品質面において高評価を受けているものの現状では量的に需要に応えきれていない。

そこで、近隣の町や農業協同組合と連携を図り、村から情報提供された水稻生産数量目標の範囲内で各種取組を推進する。

○山間特産うるち米「チヨニシキ」を主力品種として作付けを推進していく。

○担い手への土地集積を図り、作業効率の向上を図る。

○種子更新、食味計等を利用した肥培管理により品質の向上を図る。

○共同乾燥施設利用により品質の向上と均質化を図る。

○栽培暦を基本とする安心安全な米作りと生産履歴簿の記帳を徹底する。

#### (2) 非主食用米

ア 飼料用米

作付け予定なし

イ 米粉用米

作付け予定なし

ウ WCS用稲

作付け予定なし

エ 加工用米

作付け予定なし

オ 備蓄米

作付け予定なし

(3) 麦、大豆、飼料作物

作付け予定なし

(4) そば、なたね

作付け予定なし

(5) 野菜等の高収益作物

産地戦略枠を活用して「トマト」「ミニトマト」「天狗なす」「にんにく」「みょうが」「万願寺唐辛子」「シキミ」「ブルーベリー」「シイタケ」を地域の特産品として振興するとともに、将来に向けて付加価値の高い作物として産地化を推進する。

(6) 不作付地の解消

米不適作地へ振興作物の作付けを推進し、不作付地の解消を図る。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 28 年度の作付面積 (ha)	平成 29 年度の作付予定面積 (ha)	平成 30 年度の目標作付面積 (ha)
主食用米	10	10	10
飼料用米			
米粉用米			
WCS 用稲			
加工用米			
備蓄米			
麦			
大豆			
飼料作物			
そば			
なたね			
その他地域振興作物	11	11	12
野菜	6	6	7
花き・花木	1	1	1
果樹	3	3	3
その他	1	1	1

4 平成 29 年度に向けた取組及び目標

取組番号	対象作物	取組	分類※	指標	平成 28 年度 (現状値)	平成 29 年度 (目標値)
1	高収益作物	地域振興作物	ア	実施面積	2.5	2.7

※「分類」欄については、実施要綱別紙 16 の 2 (6) のア、イ、ウのいずれに該当するか記入してください。(複数該当する場合には、ア、イ、ウのうち主たる取組に該当するものをいずれか 1 つ記入してください。)

- ア 農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組
- イ 生産性向上等、低コスト化に取り組む作物生産の取組
- ウ 地域特産品など、ニーズの高い産品の産地化を図るための取組を行いながら付加価値の高い作物を生産する取組

※平成 30 年度以降の目標値を設定している場合は、「平成 29 年度 (目標値)」欄の右に欄を設け、目標年度及び目標値を記載してください。

※現状値及び目標値が単収、数量など面積以外の場合、( ) 内に数値を設定する根拠となった面積を記載してください。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり